

				科目コード	237
科目名	在宅看護論 (Home Care Nursing)		開講学科	看護学科	
選択区分	必修	単位数 (時間)	2単位 (45時間)	履修時期	3年次前期
担当教員	窪田 静、奥田 美恵、(未定)		科目区分	専門科目	
授業概要	実践例を示しながら、在宅看護を広い概念として理解し、発表、技術演習等を通して、自己課題の考察を促すべく教授する。				
授業目標	外来・訪問・病棟・入所施設・通所施設等、生活の場それぞれでの療養者像と看護を理解する。生活の継続性を支える視点から在宅看護をとらえ、在宅ケアチームでの看護師の役割を理解する。在宅療養者の多面的な背景や全体像を捉え、「その人らしく生きること」を支える方法を理解する。生活空間拡大とQOL向上を図るための、基礎的な生活環境整備とケア技術を学び、経験する。				

授業内容

回	項目	内 容	担当者
1～2	在宅看護の目的・特徴・対象者・専門性	在宅看護とは 社会的背景 どのような対象にどのように提供されるか	窪田静
3～4	在宅看護技術の特徴と専門性	自律度を高め、身体損傷を防ぐ在宅看護技術 (ポジショニング・移乗・移動・食事・入浴・排泄)	
5～6	演習 在宅看護技術	自律度を高め、身体損傷を防ぐ在宅看護技術の実際 (ポジショニング・移乗・移動・食事・入浴・排泄)	窪田静 奥田美恵 (未定)
7～8	在宅看護技術の特徴と専門性	二次障害を減らし、寝たきりを起こす 在宅看護技術	窪田静
9～10	演習 在宅看護技術	二次障害を減らし、寝たきりを起こす 在宅看護技術の実際	
11～12	対象理解と支援	居住空間から活動制限をアセスメントし、自己実現や生活を支援する視点と技術	
13～14	対象理解と支援	在宅療養者を多面的に捉え、支える方法 在宅看護論実習への展開	
15～16	在宅看護の歴史・しくみ リスクマネジメントと権利擁護	発展の経緯、諸制度とソーシャル・サービス、国際比較 安全管理・医療事故・感染対策 自己決定と個人情報保護等	
17～18	在宅看護技術の特徴と専門性	コミュニケーション 呼吸・摂食・嚥下関連	
19～20	在宅医療と医療処置	在宅酸素療法・中心静脈栄養法・人工呼吸器療法等	
21	対象理解と支援	障害者への総合的な支援 (教育協力者)	
22～23	まとめ	在宅看護論実習を前に学びを統合し、「在宅看護論を学ぶ目的と課題」を検討する	
成績評価方法	提示した課題へのレポートと小テストにより評価する。		
教科書	窪田静「生活環境整備のための福祉用具の使い方 (自己学習用 DVD 付)」(日本看護協会出版会) 地域ケアマネジメント論で教科書指定; 宇都宮宏子・山田雅子「看護がつながる在宅療養移行支援 病院・在宅の患者像別看護ケアのマネジメント」(日本看護協会出版会) 配布; 在宅医療と訪問看護のあり方検討委員会「訪問看護活用ガイド」(在宅医療助成勇美記念財団、在宅医療テキスト編集委員会)「在宅医療テキスト」(在宅医療助成勇美記念財団)		
参考図書等			
備考	地域ケアマネジメント論の進捗状況等により、授業スケジュールを変更する可能性があります。		